

平成 27 年度第 1 回平塚市博物館協議会会議録

■開催日時 平成 27 年 5 月 29 日（金）10 時～11 時 30 分

■開催場所 平塚市博物館特別研究室、特別展示室

■会議出席者（敬称略）

会 長 宮川重信

副会長 石綿進一

委 員 牧野久実、宮澤達寛、岡部盛敏

事務局 澤村館長、縣館長代理（管理担当長）、栗山館長代理（学芸担当長）

■傍聴者 なし

■会議の概要

1 開 会

館長挨拶

2 議 事

(1) 報告事項等について

・「こどもフェスタ 2015」について

・春期特別展「天変地異」について

(2) 今後の事業計画について

(3) その他

・事務連絡等

■議事および質疑

議題 (1) 報告事項等について

◆「こどもフェスタ 2015」について、事務局学芸担当長が説明資料により説明。

委 員 午前中にイベントを集中させていた理由はあるのか？

事務局 学芸員だけでなく市民の皆さんにお手伝いいただきながら運営をしているので、それぞれの分野の都合によって各自実施時間を決めている。来年度は、全体的なバランスをみて午後に移せるものは移したいと考えている。

委 員 参加者の年齢層別の内訳は把握されているか？

事務局 一日中多くの参加者で賑わうので参加者の年齢層を把握するのは困難。しかし、会場を見渡したところ小学生が多いという印象でした。

- 委員 小学校低学年が多いようでしたか？
- 事務局 低学年の参加者が多い。ご家族連れの参加者が多かったので、小学校低学年から幼稚園生までの妹や弟と一緒にきているケースが多く見受けられた。
- 委員 アンケートでは「こどもフェスタ」に対する評価は総じてよかったということだが、運営側としては午前中にイベントが集中してしまったという反省があるようだ。他の場所の様々なイベントでも必ずアンケートが置いてあり、どこも同じような形式でおいてある。ですので、良かったと感じた参加者もその感想をアンケートに書かないこともあると思う。アンケートを用いた評価を行う上で、アンケートの設置場所や時間帯などは工夫しているのか？
- 事務局 現在、入口に総合案内を設置しており、そこでパンフレットとアンケートを配布し、入口から少し入ったところにアンケート回収箱を設置している。この形式のままでいいのかということについては、回収枚数が少ないことから改善の余地があるかもしれない。
- 委員 参加者それぞれにアンケートを配布すると書くのが大変だと思うので、丸を付けるだけとか簡単にした方がいいのではないかと。
- 事務局 総合案内でアンケートを配布しているのですべての参加者の方の手にはわたっている。それを書いていただけないというのは大人と違って子どもたちには主催者に意見を言うという発想がないのではないかと感じている。
- 委員 子どもたちは活動に夢中になるので、楽しかったやいい経験ができたという想いは漠然と持っているので、それをあえてアンケートに書いて主催者に伝えようという気持ちはなかなかないのではないかと。もし、書いてほしいのであれば帰り際に「アンケートを出してね」という一言伝えたり、アンケートを記入するコーナーを設置すると子どもたちに書くという意識づけをすることができるのではないかと。ただ受付で渡してそのままではアンケートの回収は難しいと思う。対象である子どもの声をもっと聴きたいのであれば、このように工夫をすれば集まるのではないかと。
- 委員 昔の暮らし体験は小学校 3 年生の学習内容にある。それぞれの学校が工夫はしているが、すべての学校が共通して同じ体験をすることは道具が揃っている学校と揃っていない学校がある、指導してくださる方がいる学校といない学校があるという理由から難しい。ですので、こういう内容については博物館が一つのステージとして動けるといいのではないかと。また、火起こしという体験は小学校 6 年生でやられている場合があるが、専門的に学べる場というのは学校によってバラつきがある。こういう実態があるので、マンネリ化してしまっている見方もあるが、こういった内容については引き続きやってもらいたいという学校側の

想いもあるので、マンネリ化を恐れることなく重要な体験は残してほしい。

委員 「子どもフェスタ」の PR はどれくらいやられているのか？学校としてもサポートしていたので参考例を教えてください。

事務局 PR は広報「ひらつか」や博物館のホームページ、広報誌「あなたと博物館」には必ず載せている。「こどもフェスタ」は、開催前に記者クラブにプレスリリースをして実施の周知をしている。今年度、校長会や教頭会での実施の告知はしていない。

委員 こういうイベントの中で学校の中で指導のバラつきがある内容をやるということは非常にいいことである。ですので、校長会や教頭会、各学校向けに広報をいただければ各学校で広報することもできるのでぜひ、していただきたい。

委員 私も学芸員の経験あり、今振り返ると小学校の学習指導要領を読んでおけばよかったと思っている。例えば、各学芸員の方がそれぞれ指導要領を手元において小学校のどの学年で何をやっているのかを把握しながらイベントを組むといいかもしれない。

様々な改善点等が出てきたが、成功裡のうちに終わったので良かったと思う。

◆春期特別展「天変地異」について、事務局学芸担当長が説明資料により説明。

委員 アンケートで批判する意見もあるが、絶賛する意見もある。このように極端な意見が出る展示はいい展示だと思うので、あまり気にしなくてもいいのではないかと思います。

「模型があればよかった」、「地図が少しわからなかった」という意見に対するアドバイスだが、沼津歴史博物館で津波に関する展示をやっていたときのアイデアが参考になると思う。ここでは、厚さ 2 cm ほどの発泡スチロールを等高線によって切り取って積み重ねることによって大型の模型を作っていた。これならボランティアの方でも簡単にでき、とても分かりやすかった。また、低コストで作ることができるのでいいと思った。

委員 今、アンケートの結果についてあったが、人は関心の有無や立場の違いによって答える内容は様々である。対象が特定な人たちではなく、様々な人なので難しいと思う。和歌山県和歌の浦の干潟で現地の博物館が主催で干潟の生物の観察会を大勢でやっていた。子どももおり、干潟を楽しんでいた。一方、大人は和歌山県の和歌の浦一帯は 0m 地点が続いており、常に町で行う行事は災害に向けて行っているが、イベント参加者だけでなく、町全体が災害に対して関心が下火になっている。でも、子どもたちは意識をしていない。防災については博物館からだけでなく、市役所の防災担当からでも地域の人に伝えるのは難しいと思う。アンケートの中で絶賛していた方は、どのような考えで博物館の企画展に来場し何を思ったか様々だと思う。だからこそ難しいと思う

委員 近所の来場したことがある方から聞いたが、とてもよかったと言っていた。言い伝えでは、様々は災害の話聞くが、なぜそうなったのかを知ることができた。

委員 今、地図をみることができないが子どもが多い。今はスマートフォンが普及したことによって、地図から現在位置を調べたり等高線から高さを感じたりすることができなくなっている。また、その概念がなくなっている。よって、地図に対する認識は大人とことなるのではないか？

委員 学校の授業の中でもフィールドワークを取り入れる時間が減ってきている。実際の活動では、自分の学区の探検や自分の位置を調べる活動をやっているが、便利グッズが溢れすぎてしまって地図を片手に自分の足で距離を感じることや空間認識をする基礎体験が減ってきてしまっていると感じる。バーチャルの部分に生きている子どもが多いと感じる。

委員 展示を見て難しかったと感じるのは、自分のこととして迫ってくることがなかったからではないかと思う

委員 なかなか自分の地域と結び付けることができない。子どもに対して「これは君たちの地域のことだよ」と言ってもなかなかわかってくれない。金目の子どもたちも身近に川があるのに川の存在が遠ざけられている。金目川が氾濫することがある暴れ川という授業があっても、実際に子どもたちが川と戯れる機会も時間もないのが現状。自然から離れてしまっているということもあると思う。

金目川でもたまに幼稚園の先生がついて遊んでいるのも見るが、それは少ない。

金目川の護岸は整備されたが、川と戯れる機会は確実に減ってきている。

委員 今の子どもたちはゲームの中で魚釣りをしていますね。実体験が乏しい。

委員 今の子どもたちはどこになんの魚がいるかわからないでしょうね

その一方で防災教育というものは学校現場に入ってきている。東日本大震災をきっかけに、災害時にどのようにして自分の身を守るのかという内容で防災協力が入ってきている。これからの子どもたちの生きる力の1つとしては、いかに自然災害と生きていくのかが重要になってくると思う。そのような中で、今回の企画は子どもたちにとっては難しいという面もあったかもしれないが、保護者を対象にしたという面では十分に価値があったのではないかと思う。これから、学校現場で防災教育を進めていのにあたりまだまだ具体的資料が乏しいという現状である。よって、理念的な防災教育になりがちである。今回の企画展で展示されていた平塚の災害の資料は非常に有用なのでぜひ、残しておいてほしいと思う。

東日本大震災以降、自然災害に過度に反応しすぎてしまっていて臨海学校がなくなったりし

て、子どもたちが体験できなくなってしまったことが多分にあると思う。今回の企画でどのようなことがあるかわかると思うが、実際に災害が起きたときの対応など、博物館ほどの程度の内容を扱うのか？

委員 災害に備えることができるのは、昔のことを調べて以前にどのようなことがそこであったのかを知ってもらうことだと思う。地形を見て水害が起こりやすい、昔の資料をみて水害を防ぐために川の川地を変えた、建物のどういうところが危ないなどを伝え、初めて行く場所の非常口がどこあるかを確認するように意識させることができることではないか。

事務局 皆さんからとても難しいテーマだという声をいただいている。今回の図録は、自然史や歴史記録をまとめた基礎的な資料としておもしろいなと思っています。博物館の主な仕事というのは、様々な資料を明かにしていき行政や個人に考えていただくための素材を提供することだと思っており、それは今回の特別展のねらいでもある。そこからいろいろ考えていただいて要望などを言っている方もいらっしゃいます。特別展の講演会の中で講師の方がおっしゃっていたことですが、行政がどこまで対策して個々がどこから対策を考えるかの線引きが難しいです。特に博物館と防災の線引きをどこにするかを考えるところにきたのかと思う。また、災害の対策をしている行政の担当部署との関わりは情報提供だけですが、今後それ以外にどのようなことができるのかを話していくことができたらいいと思っている。

議題（2）今後の事業計画について

◆次期特別展について、事務局学芸担当長が説明資料により説明。

委員 夏期特別展の主対象に小学生、中学生、教職員とあるので、待ってましたという思いである。夏休みに古代生活を体験的に行うことができるのは、学校にもインパクトがあって、とてもいい事業なので、リーフレット、ポスターを作られるのであればぜひ、学校現場へのPRをしていただきたい。校長会含めて私たちは協力しますので。リーフレットやポスターを持ってお越しいただきたいと思う。子どもたちのスケジュールは6月に入ると地域のイベントなどバタバタと決まる。その一角として博物館のイベントを入れるのであれば6月中に学校に届くようにしていただけると効果的だと思う。教職員の方もこのようなイベントをやると言うけれども、自分たちは参加するかというと躊躇する場合もあるので、子どもたちだけで終わらず教職員も体験しようよという機会なので、今までにない積極的なPRもしてほしい。申し込み制の企画は申し込みが必ず必要ですか？

事務局 はい。必要です。材料や部屋のキャパシティがありますので、不特定多数の方に参加してい

ただくことが難しいです。

委員 申し込みの締め切りの時期である6月下旬から7月上旬は他の様々なイベントの締め切り時期と重なります。この時期に子どもたちは夏にどのような体験をしたいかを保護者の方と一緒に篩にかけます。これ以外にも家族旅行などいろいろな選択肢があるなかで、この博物館のイベントが篩に残るようにするためには、6月中旬には内容が分かって6月下旬には申し込みが始まり、7月上旬には子どもたちが申し込みの篩にかけることができるようにするスケジュールがいいのかと思う。

事務局 広報「ひらつか」の7月第一金曜日号にこのイベントの申し込みがでます。ですので、少し遅くなってしまいます。

委員 リーフレットだけでもいいと思う。

事務局 広報誌「あなたと博物館」では6月号に出ます。

委員 学校方面へのPRをよろしくお願いします。

どんぐりを食べるというイベントでは、どこの工程からやるのか？

事務局 季節的には新しいものを拾うことができないので、昨年に取り上げたものを灰汁抜きして乾燥させて保管してあるものを使います。

委員 それでは灰汁を抜いてということは言葉で説明するのですか？

事務局 はい。灰汁を抜いている様子は図録に掲載しようとしております。

委員 戦争70周年ということで、新聞など各方面で取り上げられているので皆さん興味があると思います。リレートークの語り部6名というのは平塚の方ですか？

事務局 平塚の空襲を体験した方に協力の打診をしております。

委員 子どもたちに空襲のことを聞いてきておいでと言っても経験された方がいっしょらなくなってきた時代なので、子どもたちにとってどんどん戦争が遠のいてしまっていると感じる。当時の状況を話してくださる方はとても貴重だと思う。VTRでは伝わらないものがある。以前、戦争を体験された方の絵を展示されていましたよね。

平塚にも今まで一度も話せなかったけど最近になって戦争体験を話せるようになった人がいるのではないかな。また直接は戦争を経験していない戦後生まれの方でも親から戦争の話聞いたことがある人もいるのではないかな。だから、こういった企画はいいと思います。ぜひ、大勢の人に聞いていただいて参加していただけたらいいなと思います。

委員 私なんかばあさんから聞いた話では出征の時、開戦当時はその兵士の見送りを旗立てて派手にやっていたみたいですけど、終戦が迫ってくるとひっそりと出征していったみたいですよ。

議題（3）その他

◆事務局により今後の博物館の運営について館長より発言。

事務局 今後の課題として皆様にご提示いただきたいのは。前回特別展をご覧いただき今回その特別展についてたくさんのご意見をいただきました。これよりも大きなお話で当館の常設展示をしばらく変えておりません。なかなか他の設備面の課題と絡んでおりなかなか進まないという面もあるのですが、そういう中で館活動の中で特別展のウェイトがどんどん高くなっています。これは当館に限らず、他の場所でもイベント性が高い特別展がそれぞれの館の中でウェイトが高くなってきている。特に部門によっては特別展だけで存在しているような例もあります。博物館の世界の流れの中でそのようになっていくのか、本当にそれでいいのだろうかということについて皆さんからご意見があれば伺いたいです。すぐに出ないようであれば今後の議題の1つとして考えていきたいと思っています。他の博物館に行かれた時に平塚市博物館館長がこんなことを言っていたなと思っていただければありがたいです。

◆事務局により次回日程を調整し閉会した。

以 上

当日配布資料

平成27年度 第1回平塚市博物館協議会 次第

平成27年5月29日（金）午前10時
平塚市博物館特別研究室

1 開会

2 議事

- (1) 報告事項等について
 - ・ 「こどもフェスタ2015」について
 - ・ 春期特別展「天変地異」について
- (2) 今後の事業計画等について
 - ・ 次期特別展について
- (3) その他
 - ・ 事務連絡等

3 閉会

以上

博物館こどもフェスタ 2015 結果報告

開催日：平成 27 年 5 月 6 日（水）

天候に恵まれ、1 日を通して計画したイベントを予定通り実施できた。参加者も昨年より多い感があったが、集計方法で一部変更したイベントがあり、昨年とほぼ同じ参加者数となった。アンケート結果からは、総じて楽しんでもらったことがうかがえる。

参加者数

2015 年 5 月 6 日こどもフェスタ参加者人数			
イベント名	大人	こども	合計
古代生活体験「火起こし」	106	123	229
むかしのくらし体験	114	142	256
むかしのこども遊び	48	80	128
たいこ体験コーナー	14	24	38
民家で紙芝居	15	20	35
おいしく学ぶキッチン火山実験	34	30	64
小さいけど偉大なプチ化石実物図鑑づくり	29	48	77
プラネタリウム こどもフェスタ・スペシャル	193	142	335
太陽黒点を見よう・水ロケットを飛ばそう	244	230	474
博物館ぶたいうらたんけんツアー	22	15	37
クイズに答えてミニ博士		150	150
イベント参加者合計	819	1004	1823
入館者数（受付 カウント数）	586	433	1019

26 年度 イベント参加者合計 1923 入館者数（受付カウント数）796
 25 年度 イベント参加者合計 2067 入館者数（受付カウント数）901

博物館こどもフェスタ2015 アンケート						
					2015年5月6日	平塚市博物館
学年・男女別回答者数						
	学校	学年	男	女	性別不明	計
		3才	0	0	1	1
		4才	0	1	0	1
		5才	0	1	0	1
	小学校	1年	4	1	0	5
		2年	1	2	0	3
		3年	4	1	0	5
		4年	2	3	0	5
		5年	2	2	0	4
		6年	0	2	0	2
	中学校	1年	0	0	0	0
		2年	0	0	0	0
		3年	0	0	0	0
	不明(または上記以外)		2	1	1	4
	合計		15	14	2	31
「博物館こどもフェスタ」への過去の参加経験						
ある6名 ない22名 記入無し3名						
参加したイベントの感想						
イベントの名前	感想(かんそう)					
	おもしろかった	すこしおもしろかった	ふつう	すこしつまらなかった	つまらなかった	
古代生活体験「火起こし」	16	0	2	0	0	
むかしのくらし体験	14	2	3	0	0	
むかしのこども遊び	15	4	1	0	0	
たいこ体験コーナー	8	2	1	0	0	
民家で紙芝居	2	1	0	0	0	
おいしく学ぶキッチン火山実験	9	1	0	0	0	
小さいけど偉大なフナ化石実物図鑑づくり	9	1	0	0	0	
フラネタリウムこどもフェスタ・スペシャル	12	5	1	0	0	
太陽黒点を見よう・水ロケットを飛ばそう	13	1	0	0	0	
博物館ぶたいうらんけんツアー	4	0	0	0	0	
クイズに答えてミニ博士	20	1	3	0	0	

博物館こどもフェスタ 2015 アンケート

	年齢	学年	意見・感想
1	6	小1	星座を教えてもらってとても楽しかった。昔の体験をしてみて「この時代に生まれてきて良かった」と言っていました。
2	7	小1	すごくおもしろい
3	12	小6	また来ます
4	10	小4	むかしのこども遊びの竹馬がすごく楽しかったです。学校だと鉄の竹馬だけど、竹でできているので軽かったしうまく乗ることができました。
5	10	小5	竹馬をやったら腕が痛くなった。
6	9	小3	「クイズに答えてミニ博士」で色々難しい問題があって1人じゃできなかった。

7	49		とても楽しかったです。今日の朝刊を見てきました。また来たいです。
8	11	小 6	もう少しご飯の量を増やしてほしい。太陽の黒点はへこんでるのか知りたい。
9	10	小 5	火山のやつは飲んだりできて楽しかった。化石と火山は面白い話をしてくれたので楽しかったです。クイズでは景品がもらえて良かったです。屋上でやったのは家で作ろうかなと思ったぐらいすごかったです。また来たいです。
10	53		工夫された楽しい企画が多かったと思います。これからも続けてほしいです。ありがとうございました。
11	75		こども、孫が参加したら喜ぶでしょう。
12	8	小 3	たこづくりもやってみたいです。
13	7	小 1	参加して良かったです。来年もまた来たいです。
14	7	小 2	火おこし、すぐく待たため暮らし体験ができなかった。残念です。キッチン火山実験、参加できなかったので回数を増やしてほしい。楽しかったので来年も参加したい。



平成 26 年度春期特別展「天変地異 平塚周辺の自然災害」開催報告

会 期 2015（平成 27）年 3 月 11 日（水）～5 月 10 日（日）
休館日：月曜日（5 月 4 日は開館）

主 旨 平塚市には、かつての自然災害を示す資料や記録が多数存在する。これらから知ることのできる自然災害の情報は、現在、そして未来の市民が防災・減災をはかるうえで重要な手掛かりになると思われる。

そこで、本特別展では、平塚周辺で発生した自然災害に、博物館の自然・人文両分野の目から光をあて、その実態を紹介する。あわせて災害対策課と連携して展示・企画を行い、市民生活の安全に寄与する。

展 示 構 成 第 1 章 自然災害とは／第 2 章 気象災害／第 3 章 火山災害／第 4 章 地震災害／第 5 章 災害とのたたかい／第 6 章 予想される地震・ハザードマップ／第 7 章 災害対策課防災コーナー

入 館 者	入館者数			開館 日数	こどもの 割合	平均入館 者数/1 日
	大人	子ども	合計			
3 月	2830	654	3484	18	18.7%	193.5
4 月	3283	797	4080	26	19.5%	156.9
5 月	2633	1756	4389	10	40%	438.4
期間計	8746	3207	11953	54	26.8%	221.3
25 年度	6851	3085	9936	51	31%	194.8

「水と生きる里 金目の風土とその魅力」(3/15～5/11)

関 連 行 事 記念講演会「元禄地震と平塚」 (参加 78 名)
下重 清氏（東海大学文学部非常勤講師）
3 月 22 日（日）14 時～15 時 30 分

記念講演会「歴史に学ぶ防災論：関東大震災は語る」 (参加 77 名)
武村雅之氏（名古屋大学減災連携研究センター教授）
3 月 28 日（土）14 時～15 時 30 分

特別展展示解説

- ① 3 月 21 日（土） 13 時～13 時 55 分 (参加 21 名)
- ② 4 月 4 日（土） 13 時～13 時 55 分 (参加 20 名)
- ③ 4 月 11 日（土） 13 時～13 時 55 分 (参加 25 名)
- ④ 4 月 25 日（土） 13 時～13 時 55 分 (参加 18 名)
- ⑤ 5 月 9 日（土） 13 時～13 時 55 分 (参加 16 名)

野外見学会「関東大震災の記念碑をたどる」
4 月 5 日（日） 13 時～16 時（雨天講堂開催） (参加 11 名)

野外見学会「巡って学ぶ自然災害と微地形」
4 月 11 日（土） 13 時～16 時 (参加 22 名)

天変地異シンポジウム「平塚周辺の自然災害を考える」
4 月 19 日（日） 13 時 30 分～15 時 (参加 46 名)

防災講演会「東日本大震災以降の平塚市の災害対策」
4 月 25 日（土） 10 時～13 時 (参加 53 名)

寄贈品コーナー「3.11 東日本大震災写真展」

3 月 5 日（木）～5 月 10 日（日）

2F 情報コーナー「楽しく続けるわが街の防災」(ひらつか防災まちづくりの会)

4月1日(水)～7月4日(土)(期間延長)

プラネタリウム番組「星空とともに」・「3.11 東日本大震災の記録～岩手県南部沿岸地域の3年間」

①3月11日(水) 14時～15時 (参加 34名)

②3月11日(水) 15時30分～16時30分 (参加 17名)

③3月14日(土) 15時30分～16時30分 (参加 46名)

印刷物

図録「天変地異 平塚周辺の自然災害」

A4判 64頁 カラー 1000部 頒布価格 ¥1000

ポスター B3判 カラー 500部

リーフレット A4判 カラー 2000部

アンケートの結果

有効回答数 68枚

回答者の住所 平塚市内 44名、平塚市外神奈川県内 19名、神奈川県外関東地方 4名、関東地方以外 1名

回答者性別 男 41名、女 27名、

回答者年齢	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
	19名	3名	6名	13名	5名	14名	7名

情報の入手先 広報ひらつか 24名、博物館のホームページ 4名、あなたと博物館 2名、新聞等 3名、ポスター12名、口コミ 1名、その他 18名

おもしろさ	とてもおもしろい	ややおもしろい	ふつう	ややつまらない	つまらない
	38名	19名	7名	1名	2名

難しさ	とてもよくわかる	まあわかる	ふつう	ややむずかしい	とてもむずかしい
	26名	28名	8名	5名	

総合評価	とても良い	まあ良い	ふつう	もう少し	良くない
	39名	20名	3名	1名	4名

ご意見・ご感想

- ・ 質問への説明回答もわかりやすく理解できたと思う。
- ・ 平塚の地形を立体化した模型みたいな物があればよかったか？
真土地区の雨水氾濫の原因は何かについての説明があればよかったか？（私はザアーとした感じで拝見した）
- ・ 博物館の特別展示というと歴史資料か考古資料が中心となりがちかと思いますが、歴史資料と地質資料、さらに防災関連の展示もあわせて行うことで、ふだんは安全で災害のない地域でも、災害は発生するという危機意識を高めるという意味で、とても興味深い展示だと思いました。
- ・ 多岐に渡る展示、大変興味深く拝見させていただきました。平塚に特化した箇所は常設化しても良いと思います。
- ・ 長期間でみると、自然災害も歴史である。地球は dynamic であり、生き物である。それに人は従応として生きざるをえない。
- ・ もう少し子どもにも分かりやすくしておもしろいせつめいか、きょう味をもてるものをてんじするともっと人気が出ると思います。でも、入ってすぐの地球と月と太陽のはとてもおもしろかったです。
- ・ 災害は 1 番の関心事です。地震も気になりますが、火山灰も気になっていました。とても勉強になりました。
- ・ 様々な情報をここを訪れた事により、知ることができてよかったです。
このような自分の命に関わるような事を知る事により、自分や周りの人を助けられるように。
- ・ もっと資料・文献を研究して内容を深め、具体的に説明すべき。新聞でもテレビでもわかる程度の内容をただ並べているだけ。平塚独自の地震災害対策を研究し、周知すべき。（「インターネットにアクセスしろ」ではあまりに不親切）新しい災害予測が出ているのに、何の対策も示せない姿勢に対して不満です。博物館も積極的に行動すべき
- ・ コピッチサイクルの地球が回転しながら 1 年を回っているが、世界地図がわからないし、日本の位置もどこかわからない。ただ、ボールが回転しているに過ぎない。
- ・ 非常に面白いですが、やや文字と写真がぎっちり過ぎて導線が捉えづらいところがありました。
- ・ まさに博物館の総力を挙げた展示という感じで感動しました。各分野の学芸員の力量も大きいと思います。
- ・ 興味深い写真や資料がたくさんあり、勉強になりました。
- ・ 平塚周辺の地盤図を大変興味深く見ました。ここに注文なのですが、小生色盲で地盤図凡例の色分けがよくわかりません。色カードを地図と合わせて比較すればわかるのですが、凡例の色表示が離れていて不可能です。何か工夫してもらえませんか。
- ・ 内容が多くて全容がうまく整理されたかたちで理解できなかつた。学芸員さんの説明の日にもう一度来てお話しをお聞きしたい。
- ・ 自然災害をテーマに各種地域資料を良くまとめています。「天変地異」のテーマ名も関心をそそり、展示内容も素晴らしいものです。平塚市内もさることながら、周辺市町村にも広くアピールできる出来栄だと思います。数年毎に同じテーマで展示してください。災害は忘れた頃にやってきますから。博物館関係諸氏には感謝いたします。ありがとうございました。
- ・ 直接御聞きすることができ、とても勉強になりました。災害はその時は関心を持って考えるが、すぎてしまうと忘れがちになってしまうので、この様な企画があるととても良いと思いました。
【展示解説参加者】
- ・ お話を 1 つ 1 つていねいにさせていただいて、とても分かりやすかったです。聞いていてすごく興味を持ちました。【展示解説参加者】
- ・ 自然災害の説明をしていただき、とても為になりました。【展示解説参加者】

興味深い資料があつてとても良いと思うが、全体的に見にくい。もう少し見やすさを工夫されるともっと良いのでは。

- ・ 災害を正しく恐れるために必要な情報を得ることができました。難しくなる事は仕方ないと思います。私たちにできることは正しい情報を集めて考えることだと思います。
- ・ 化石や地球のことについて書いてあつたりして分りやすかったです。よく知れた。
- ・ 太陽のうごき、ちきゅうのうごきやつきのうごきが見えてうれしい。
- ・ 別にパネルをガラスから出して手前でよみやすくする。ポスターも。火山灰：こまかい文字は拡大して文章も拡大して表示する。
- ・ ガイドボランティアか学芸員かわからないが、高声で御高説をのたまう男女がいて迷惑した。
- ・ ここに来てこの特別展を知ったのですが、分りやすく看板があつたので興味がわき、入りたいなと思いました。また、展示してあるものも分りやすいものがたくさんあり、とてもおもしろかったです。
- ・ 災害が多いこの頃で自分の住んでいる地域のこれまでの災害を知ることが出来た。日頃から関心を持っていきたい。
- ・ 今後予想されるリスクとその対策をもっと掘り下げて行ってほしい
- ・ 興味があつたので来てみたが、資料も多数展示されており、わかりやすかった。平塚の事、またそれ以外の事項も詳しく説明されているのには、ここまで相当時間をかけてプランされたと思うと頭が下がります。次回の展示も又来たいです。
- ・ 大学入学とともに平塚に越してきて 4 年。まだまだ知らない所が多いなと実感。家のすぐ近くに断層があるのを初めて知った。
- ・ 同じポスターを何枚か貼つてあつたので、1 枚かまあ、2, 3 枚でいいかなあ！と思いました。
- ・ 自然災害がいつふりかかるかわからないという緊張感を新たにすることができました。
- ・ 展示物を見て東日本大震災のことを思い出した。
- ・ 私は東日本大震災を思い出しました。私は小 6 の時に家で一人でした。急にゆれたので私は思わずパニックになりました。その時はすごく怖かったです。
- ・ ご説明いただいた森先生は大変であつたと感謝しますが、もう少し時間をかけて説明して欲しいと思いました。
- ・ 天文・考古・地学から総合的な展示となつていて興味深い。学芸員さんの苦勞がしのばれます。広すぎてポイントがわかりにくかったが、いっそ、文学・生物なども展示に加えても良いのでは？
- ・ アンケートの「おもしろさ」という表現が適切か？参考になつたとか理解しやすかつたとかに！
- ・ 平塚市に引っ越してきて約一年になります。平塚市の災害の歴史の流れはとても興味深かつたです。また、治水とたたかつてこられた政治があるので、今、被害が少なくなつていて感じます。平塚市は地形もおだやかで気候もよく、くらしやすいので、災害の対応を考えておけばとても良い土地だと思いました。
- ・ 前に住んでいたところではこのような場所はなかつたので良い経験になつた。また、その事をぬいてもとてもおもしろかつた。また見に来ようと思う。
- ・ いにしへの災害史について知る機会に関東大震災をのぞけば 2011 年の東日本大震災や 1995 年の阪神淡路大震災などまであまりなかつた気がします。今後どの様な天災が起きるかはわかりません。でも、昔のことを知っておくだけでも知らずにいるよりかはマシでしょう。
- ・ もっと身近な問題として市民が考えれば良いが、あまり考えていない。地域で話しても無関心の人が多い。
- ・ 子ども向けのがない

平塚市博物館 平成 27 年度 夏期行事予定

■夏期特別展

古代生活実験室—とにかくやってみよう！—

会期 平成 27 年(2015 年) 7 月 18 日(土)～平成 27 年(2015 年) 9 月 13 日(日)

主催 平塚市博物館・古代生活実験室

会場 平塚市博物館 特別展示室

概要 「古代遺跡を探索会」の分科会としてスタートした古代体験グループの活動は、平成 18 年に「古代生活実験室」として独立し、古代人の技術を実際に体験することによって学ぶことを目的として活動を続けてきました。その成果は博物館の体験学習だけでなく、学校での歴史学習にも大いに役立っています。

今回の特別展では、分科会時代以来 10 年以上の活動で培われた技術を多くの場面で利用できるようまとめるとともに、実験考古学や古代体験のポイントを考えます。

主対象 一般市民、幼児、小学生、中学生、高校生、教職員、一般指導者、研究者

構成

I 実験考古学

- 1 実験考古学ということ
- 2 古代生活実験室の歩み

II 古代生活実験室の活動と成果

- 1 生活の原点—火おこし—
- 2 切る、掘る、たたく—石器づくり—
- 3 人類最大の発明—土器づくり—
- 4 古代の味覚を探る—古代食—
- 5 海辺のハンターをめざして—鹿角製釣り針づくり—
- 6 古代の音色—土笛づくりと楽器—
- 7 古代実験のいろいろ

III 古代体験活動

- 1 博物館の体験行事
- 2 学校での体験指導

関連行事 ① 作って奏でる弥生の土笛 弥生時代の遺跡で出土事例のある、やきものの笛を作り、太古の音色を体験します。

開催日 7 月 19 日(日) 製作

平成 27 年度第 1 回協議会【資料 2】夏期行事予定

8 月 23 日（日）焼成、演奏

対象 小学 4 年生以上（両日とも参加できる方）

② 舞きりで火を起こそう 舞きりを製作し、実際に火を起こします。

開催日 7 月 26 日（日）

対象 小学 4 年生～中学生

③ 弓矢を作ろう 「弓矢」を作り、縄文時代当時の最新メカニズムを体験します。

開催日 8 月 2 日（日）

対象 小学 4 年生～中学生

④ ドングリを食べる 縄文時代の貴重な食料「ドングリ」をクッキー状に作り、現代のクッキーと食べ比べます。

開催日 9 月 6 日（日）

対象 小学 4 年生～中学生

⑤ 展示解説 期間中 3 回程度

開催日 7 月 18 日（土） 8 月 8 日（土） 8 月 29 日（土）

印刷物 ① 図録

② リーフレット

③ ポスター

■企画展

寄贈品コーナー「宇宙からの光」

内容 2015 年は国連／ユネスコが定めた国際光年（ひかりねん）、それに合わせて光の性質と様々な光で見た宇宙の姿を解説します。

会期 6 月 20 日（土）～7 月 14 日（火）

寄贈品コーナー&情報コーナー「平塚空襲 70 周年展」

内容 平塚空襲の概要・実態を紹介するとともに、平塚の空襲と戦災を記録する会の調査結果をあわせて展示します。

会期 7 月 16 日（木）～9 月 3 日（木）

■プラネタリウム

プラネタリウム一般向け番組「太陽と星の動き」

内容 学校で習うけどよくわからない…そんな太陽や星の動きをわかりやすくプラネタリウムで解説します。

投影日 6月20日(土)～7月12日(日)の土・日曜日

プラネタリウム一般向け番組「冥王星フライバイ」

内容 アメリカの探査機「ニュー・ホライズンズ」が前人未踏の天体、冥王星にいよいよ接近します。宇宙探査の基礎や、次々送り届けられてくる冥王星の最新画像について、詳しく解説します。

投影日 7月18日(土)～8月30日(日)の土・日曜日

プラネタリウム幼児向け投影「だれが おひさま かくしたの？」

内容 動物たちが日食の謎を解き明かす物語です。

投影日 7月11日(土)までの土曜日、8月以降の第2・第4土曜日(午前11時)

※「親子ほしぞらタイム」:7月11日(土)まで、小学生以下のお子さんと一緒にのお母さんお父さんは、観覧料が無料になるキャンペーンを実施しています。

特別投影「夕凧の街 桜の国」

内容 ヒロシマの原爆を扱った、こうの史代氏原作の同名コミックを全天周映像番組にしたものです。星空解説はほとんどありません。

投影日 7月18日(土)～8月30日(日)までの土・日曜日(午後3時30分)

■申込制の行事

自然観察入門講座「貝化石を調べよう」

内容 大磯海岸で地層や貝化石を調べ、大地の生い立ちを学びます。

日時 7月23日(木)午前9時～午後3時

場所 大磯海岸

対象 小学4年生以上

体験学習「国際光年関連イベント ミニプラネタリウムを作ろう」

内容 LEDライトを使った小さな投影機を作り、プラネタリウムドームの中で実際に映します。

日時 7月28日(火)午後2時～午後4時

対象 小学生以上

体験学習「国際光年関連イベント いろいろな虹を見てみよう」

内容	光を虹に分ける道具・分光器を作り、様々な光を虹に分けて観察します。
日時	7月31日（金）午後2時～午後4時
対象	小学4年生以上

体験学習「国際光年関連イベント 光る星座カードを作ろう」

内容	導電性インクペンを使って、LEDの星座カードを作ります。
日時	8月4日（火）午後2時～午後4時
対象	小学生以上

体験学習「国際光年関連イベント デジタルカメラを作ろう」

内容	流行の1ボードマイコン「Arduino」を使った、30万画素のデジカメ作りに挑戦します。
日時	8月7日（金）午後2時～5時
対象	小学校4年生以上

体験学習「地形模型を作ろう」

内容	厚紙を切り抜いて積み重ね、地形模型を作ります。
日時	8月18日（火）、20日（木）午前9時～午後4時
対象	小学校4年生以上で2日間参加できる方

みんなで調べよう！ 2015 ～セミのぬけがら調査～

内容	セミのぬけがらを記録して、平塚市内に生息するセミの種類と分布を調べます。平塚市博物館と平岡幼稚園の協働事業です。
調査期間	平成27年（2015年）7月11日（土）～8月25日（火）
講習会	7月11日（土）、7月16日（木） ※いずれかの日程で受講（博物館）
合同調査	7月26日（日）（野外）
まとめ	8月25日（火）（博物館）
対象	一般（小学生以下は保護者同伴）

自然教室「夕方の鳥をみよう」（調整中）

内容	水辺の鳥を中心に観察します。
日時	8月22日（土）15時30分～17時30分
場所	金目川付近（高麗大橋～平塚大橋）
講師	こまたん

■自由参加の行事

天文連続講座「宇宙からの光」第 5 回「総集編：多波長で見る宇宙」

内容 2015 年は国連／ユネスコが定めた国際光年（ひかりねん）、それにちなんだ連続講座です（各回完結なのですべて参加できなくても OK です）。第 5 回は、様々な光で宇宙を見たらどう見えるかプラネタリウムで再現します。

日時 7 月 4 日（土）午後 3 時 30 分～午後 5 時

スターウォッチング入門講座・夏

内容 星空をちょっと眺めたいなという人や、これから星を見始めたい人のための入門講座です。流れ星の観察方法や天の川の見やすい場所を紹介します。

日時 7 月 12 日（日）午後 3 時 30 分～午後 5 時

リレートーク「市民が探る平塚空襲」

内容 空襲の体験証言から平塚空襲の実態に迫ります。

日時 7 月 18 日（土）午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

ろばたばなし

内容 民家のいろりばたで昔話を語ります。

日時 7 月 19 日（日） (1)午後 1 時 20 分 (2)午後 3 時

星を見る会「月や土星、夏の星を見よう」

内容 半月前の月や見ごろを迎えた土星、夏の星を望遠鏡などで観察します。

日時 7 月 23 日（木）午後 7 時～午後 8 時 30 分

星を見る会「土星や夏の星を見よう」

内容 見ごろを迎えた土星や夏の星を望遠鏡などで観察します。

日時 8 月 6 日（木）午後 7 時～午後 8 時 30 分

体験学習「国際光年関連イベント 不思議な板で万華鏡を作ろう」

内容 偏光板という不思議な板を使って万華鏡を作ります。

日時 7 月 24 日（金）午後 2 時～午後 3 時 30 分

天文連続講座「冥王星と広がる太陽系」第 1 回「冥王星はこんな惑星」

内容 ついに探査機が到着した冥王星。これまで明らかになった冥王星の姿を最新の探査画像などから紹介します。全 3 回の講座ですがすべて参加できなくても大丈夫です。

日時 7 月 26 日（日）午後 3 時 30 分～午後 5 時